

第9回吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会

議事概要

◆日 時 平成21年3月23日(月) 13:00~15:15

◆場 所 上北山村振興センター

◆出席者

<自然環境等に関する専門家・研究者>

田村 義彦	大台ヶ原・大峰の自然を守る会	会長
長嶋 俊介	鹿児島大学多島園研究センター	教授
西田 正憲	奈良県立大学	教授
村上 興正	元京都大学	講師(ご欠席)
横田 岳人	龍谷大学	准教授

<関係行政機関>

林野庁近畿中国森林管理局三重森林管理署	流域管理調整官	鳥谷 和彦
奈良県地域振興部文化観光局ならの魅力創造課	主任調整員	福野 博昭
奈良県くらし創造部景観・環境局森林保全課	主査	米浪 祐次
三重県環境森林部自然環境室	(ご欠席)	
上北山村建設産業課	課長	福本 清
	主幹	松島 克典
川上村地域振興課	(ご欠席)	
大台町宮川総合支所産業室	係長	柘田 満

<関係団体等>

上北山村議会経済常任委員会	委員長	新谷 五男
上北山村観光協会・上北山村区長会	(ご欠席)	
上北山村漁業協同組合	組合長	金山 進英
上北山村商工会	会長	中谷 守孝
(財)グリーンパークかわかみ	(ご欠席)	
大杉谷自然学校	(ご欠席)	
近畿日本鉄道(株)大阪輸送統括部運輸部事業課	(ご欠席)	
山岳ガイドクラブ 北山いこら	会長	鎌田 誠明
奈良県勤労者山岳連盟	自然保護委員長	由良 行基周
奈良県山岳連盟	副会長理事	大日 公一
奈良県タクシー協会	(ご欠席)	
奈良交通(株)吉野営業所	助役	森 康七

(社) 日本山岳会関西支部	自然保護委員長	斧田 一陽
特定非営利活動法人森と人のネットワーク・奈良	(ご欠席)	
大台ヶ原地区パークボランティア		山本 勇三
吉野きたやま森林組合	参事	森岡 哲也
吉野熊野観光開発(株)	(ご欠席)	
ワーク21かみきたやま	(ご欠席)	

(以上敬称略)

<事務局>

環境省近畿地方環境事務所	統括自然保護企画官	田邊 仁
	国立公園・保全整備課長	杉田 高行
	自然再生企画官	松井 裕
	自然保護官	吉澤 泰輔
同 吉野自然保護官事務所	自然保護官	濱名 功太郎
(株) スペースビジョン研究所		宮前 洋一
		幡 建樹

◆議 事

- (1) 平成 20 年度西大台利用調整地区の運用結果について
- (2) 平成 20 年度西大台利用調整地区の運用計画について

◆議事概要

1. 運用結果について

■利用者数について

(龍谷大学 横田委員)

立入可能人数の上限に達した日は何日あったのか。

(環境省 吉澤)

6/3と11/11の二日だけであった。

(吉野北山森林組合 森岡委員)

上限に達した日は2日だけであったが、予約の段階で上限に達してしまったために立入希望日を変更した利用者はいた。人数は把握できていない。

(上北山村漁業協同組合 金山委員)

利用調整開始前に比べて開始後の入山者数が大幅に減少している。特に、小処温泉から入山する、あるいは小処温泉へ下山する利用者が減少しており、上北山村経済に影響を与えている。環境省はどう考えているのか。

(環境省 田邊)

自然環境への負荷が低減されたという点では効果が見られたが、入山者数は上限人数に比べ

て少ないと考えている。PRが不足していたと認識しており、改善に取り組んでいきたい。

■トイレの設置について

(日本山岳会関西支部 斧田委員)

歩道沿いに簡易トイレ(携帯トイレ使用のためのブース)が設置されていたという情報を入山者から得たが、誰がどのような目的で設置したのか。

(環境省 杉田)

携帯トイレの普及に関する調査のために民間団体に使用許可を与えて、一時的に設置したものの。

(環境省 田邊)

トイレの問題は利用対策部会でも議論されている。トイレを設置する予定はないが、携帯トイレの普及については検討していきたい。

(鹿児島大学多島圏研究センター 長嶋委員)

自然保護と利用者の便のバランスが重要なので、利用対策部会等で検討していきたい。

2. 運用計画について

■一団体当たりの立入可能人数について

(奈良交通 森委員)

西大台への入山者が少ないのは、一団体の人数が10人に制限されていることも原因となっていると考えられる。当社は路線バス事業以外にツアーも企画しているが、人数制限があるのでツアーが組めなくなった。

(龍谷大学 横田委員)

立入の分散化が進んでいるにもかかわらず、入山者が低位にとどまっているのは、1団体10人までという制限が影響を与えていると考えられる。また、10人という制約があれば学校団体などの入山もできない。

(鹿児島大学多島圏研究センター 長嶋委員)

団体を10人以下のグループに分割して各グループにガイドを付けるなど、幅広い人々が利用でき、かつ質の高い利用ができるようにしていくべきだ。質の高い利用を行うために必要な一団体の人数上限や団体間の時間間隔などについて、環境省側でデータ収集をすすめ、改善策を提案して欲しい。

(奈良県立大学 西田委員)

利用者が低位で推移するなら、変更に取り組む必要がある。

■立入認定申請手続きの迅速化について

(上北山村建設産業課 福本委員)

入山者が少ないのは手続制度が不便であるからだと思われる。申請窓口が吉野自然保護管事務所に変更になり、専門職員が配置されるのであれば、迅速化が可能ではないか。

(鹿児島大学多島圏研究センター 長嶋委員)

電子申請やネットによる情報提供など、利用者の利便性を高める工夫はできないのか。

(環境省 田邊)

Eメール等による申請もできるようにすることは可能だが、周知期間が必要なので、実施するにしても1年先以降となる。

■PRについて

(奈良県ならの魅力創造課 福野委員)

大台ヶ原の魅力発信を行うと聞いていたが、進捗状況はどうなっているのか。

(環境省 田邊)

ホームページを工夫したり、山岳雑誌に記事として取り上げてもらうなど、情報発信を進めていきたい。

■ガイドについて

(奈良県ならの魅力創造課 福野委員)

ガイドの養成の進捗状況はどうなっているのか。

(鹿児島大学多島圏研究センター 長嶋委員)

ガイド制ワーキングで検討している。質の高い利用を推進するためにはガイド認定制度が必要であり、認定制度の創設に向けて奈良県と調整を図る必要がある。

■普及啓発について

(鹿児島大学多島圏研究センター 長嶋委員)

普及啓発用にビデオを作成しているとのことだが、委員や地元旅館等に配布して意見を集めるなどして、内容を改善していくことが必要だ。

(奈良県ならの魅力創造課 福野委員)

ビデオを作成しても放映されなければ意味がないので、配布先などに配慮して多くの人々に見てもらえるよう工夫して欲しい。

■運用計画案への追加項目について

(鹿児島大学多島圏研究センター 長嶋委員)

来年度の運用計画案に「エコツアーガイドの実施」および「立入認定手続きの見直し」の項目を追加して欲しい。

(環境省 田邊)

「エコツアーガイドの実施」については「普及啓発」の枠組みの中で取り組んでいきたい。

「立入認定手続きの見直し」については新たな項目として追加する。

■西大台利用者へのアンケート結果への対応について

(奈良県勤労者山岳連盟 由良委員)

アンケートで要望のあった点(例えば事務手数料の高さや、諸事情により入山できなかった場合の料金の返還など)について、改善して欲しい。

(鹿児島大学多島圏研究センター 長嶋委員)

料金設定の理由や、手数料が返金できない理由などをQ&A集などを作って利用者に公開すべきだ。また、料金に見合ったサービスの提供(例えば、インターネット利用した手続きや予約状況の公開など)を行うべきだ。

(環境省 田邊)

手数料については、通信費や資材費、人件費などをもとに決定している。利用者からの要望についてはQ&A集などをつくり対応していきたい。

■協議会の開催時期・回数について

(奈良県勤労者山岳連盟 由良委員)

制度を変更していくためには、もっと早い時期に協議会を開催しなければ、次年度からの改正に間に合わない。

(鹿児島大学多島圏研究センター 長嶋委員)

制度変更のためには、開催回数の増加や開催時期の前倒しについて検討する必要がある。

■その他意見

(山岳ガイドクラブ北山いこら 鎌田委員)

西大台の歩道には洗掘などによって荒廃している箇所があるが補修の予定はないのか。

(環境省 田邊)

歩道を管轄する奈良県と協議して対応を考えたい。

(山岳ガイドクラブ北山いこら 鎌田委員)

防鹿柵が歩道際まで迫っている場所があるが、景観を阻害しているので、もう少し歩道から離れた場所に設置するなど考慮して欲しい。